

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4572000562		
法人名	有限会社すいせん		
事業所名	グループホームすいせん川南	ユニット名	2棟
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南19415-1		
自己評価作成日	令和3年12月15日	評価結果市町村受理日	令和4年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和4年1月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームすいせんの基本理念
 1. 利用者様に寄り添いながら、ゆったりと穏やかに過ごして頂きます。
 2. その人らしさを尊重し、居心地の良い環境の中で、自信や生き甲斐を取り戻して頂けるよう支援致します。
 3. 笑顔の絶えないグループホームの実現を目指します。

基本理念にそって、利用者様に寄り添いながら、一人ひとりの想いを丁寧に傾聴し、ゆっくと丁寧な優しい言葉で接し、楽しく穏やかな生活がおくれるよう、日々の介護に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームに隣接する水田は、近くの小学校の学習田になっている。ホームの利用者は、昔ながらの方法で行われる田植えや稲刈りを見学したり、子供に声かけしながら懐かしみ、昔の自分をとりもどし自信や生きがいに繋がり、基本理念に沿ったケアの一部となっている。管理者は、運営推進会議でホームの活動状況報告を工夫するなど意見を出し易くしたり、報告書を町担当課で閲覧してもらうことで、ホームの一層の理解に繋げている。また、本人やご家族の要望に沿って、最後までアットホームな雰囲気の中で過ごしていただけるホームづくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関やリビング、職員トイレ等、目につく所に掲示しており、常に職員の意識づけを行っている	言葉かけや支援方法など日々のケアに反映させて、理念の実践に繋げている。また、職員定例会などで話し合いを行い、理念の共有やその意義を深めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域とのつきあいは難しくなっている。小学校の田植えや稲刈り見学は窓越しで見学交流している	コロナ禍で、利用者の直接的交流は難しいが、小学校の学習田で行われる田植えや稲刈りを窓越しで見学、声掛けするなどの交流を行っている。また、自治会長から地域の情報収集に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生や高校生の職場体験の受け入れや、近隣の幼稚園児の発表の場を設けていたが、コロナ禍により、受け入れを見合わせている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を行い、民生委員や地域の班長、利用者様のご家族に出席していただき、意見・アドバイスをもらいサービス向上に努めている	運営推進会議がコロナ禍で書面開催の時でも、事前に各委員から意見が貰えるように返信用封筒を同封している。出された意見の集約や検討事項、利用者状況等を各委員に郵送し報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき現状報告を行っている。開催できない場合は、郵送対応し、また、分からない事は、担当者が密に連絡を取り、相談している	日頃からコミュニケーションを図り相談し易い関係を作っている。また、町担当者も運営推進会議の報告を担当課内で回覧しホームの理解に繋げるなど、積極的に協力関係の構築を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や窓の施錠は日中していない。毎月、定例会にて身体拘束の実態把握や廃止に向けた検討を行っている。身体拘束に関するマニュアルを職員の目の届く所に置いている	現在1名、身体に危険が及ぶことから車いす安全ベルトを使用しているが、家族に理解を得た上で必要最小限を念頭に置き、こまめな着脱を行い利用者の負担を最小限にしている。また、記録を残して、運営推進会議でも報告している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	半年ごとに職場内研修を行い、外部研修に参加し定例会等で報告し共有している。正しい知識と理解を持ち虐待が見過ごされないよう努力している			

宮崎県川南町 グループホーム「すいせん川南」(2棟)

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の一部に関しては、定期的に権利擁護の外部研修へ参加しているが、ほとんどの職員が理解が浅く、今後も、研修に参加する機会を設ける必要がある			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入所時に契約書や重要事項説明書を示しながら口頭で説明し、理解・納得をいただいた上で署名、捺印をいただいている			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が気軽に話せる雰囲気づくりを心掛けている。玄関には意見箱を設置している。利用者からは日常の会話の中から意見や要望を引き出すようにしている	運営推進会議には、毎回家族の出席もあり意見を出せる機会となっている。また、写真を活用し、利用者の様子を伝えることで、家族にもホームでの状況を把握してもらうなど、意見を出し易い配慮を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りの場で意見交換し、良いことは実践に繋げるように努めている。個人的に相談や意見があった場合は、その都度、対応している	管理者は、日頃から職員とコミュニケーションを図り、意見を出し易い雰囲気づくりが行われている。職員の意見から、排泄介助の時間、方法を見直し、おむつ削減に繋がった。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在、人材不足で勤務体制に無理が生じているが、職員の希望にそった休暇や有給休暇は職員が自由に取得できるよう努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により、外部への研修には、なかなか参加できていない。オンラインでの研修が増え、参加できる職員が限られている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により、オンラインでの会議や研修に参加している。また、研修で知り合った同業者と交流を深めサービスの質の向上を目指している			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人と面会、可能な方は施設見学をしていただいている。ご本人の要望・想いを傾聴し、否定せず相手を受け入れ、安心していただけるよう努力している			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の生活歴や家での様子・状態、ご家族の要望を伺っている。相談しやすい関係を築けるよう努力し、細かな情報交換を心掛けている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に、ご本人やご家族と話し合い、状況に応じたサービス提供に努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したりたたんだり、食器洗いなど、ご本人の出来る事を一緒に行い、感謝の言葉を述べている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時や電話等で現状報告をし情報交換をしている。施設での生活状況を記載したおたよりを年4回発行している			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は、面会時に居室でゆっくりと会話を楽しんでもらったり、地元のスーパーの買い物に一緒に行ったりしていたが、コロナ禍により、一部制限されている	コロナ禍、今までのような支援は行えていないが、携帯電話で県外の孫との会話を楽しまれたり、馴染みの場所へのドライブなどを継続している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性等を考慮し、席の配置を検討している。全員で出来る体操やレクリエーションを取り入れ、利用者様同士のトラブルや孤立が無いように、職員が間に入り対応している			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも外部で会った時は、近況を聞かせてもらっている。また、何かあった時は、いつでもご相談くださいとお伝えしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から利用者様の希望や意向を聞き出している。また意思疎通が困難な方は、表情や行動から思いを把握するように努めている		普段の生活の中で、一人一人の言動や表情から思いや意向の把握ができるよう寄り添うケアに努めている。私の気持ちシート(センター方式 C-1-2)から状況を把握し職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使いなれた物があれば施設でも使用していただいている。これまでの生活歴等をご本人、ご家族からも情報収集し、職員同士で共有するように努めている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の行動を観察し、介護記録や申し送りノートを活用しながら現状把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回、担当者がモニタリングを行っている。介護記録や日々の会話を参考にし、ご家族様の意向も伺いながら、計画作成担当者と話し合い、現状にあった介護計画書を作成している		本人の意向や状態、日々の記録、職員間の話し合い、家族の意向を反映させるプランを作成している。毎月実施するモニタリングにより、必要に応じ見直し、現状に合った介護計画へ変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、状態、発言を介護記録に残したり、申し送りノートを活用したりしている。状態に変化があった時は、別紙記録に詳細を記入し、職員間で情報共有しながら日々のケアを実践している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況に応じて、可能な限り希望に沿った対応を心がけている。買い物代行、訪問理容や歯科の往診、ガイドヘルパー利用や介護タクシー利用等、臨機応変に行っている			

宮崎県川南町 グループホーム「すいせん川南」(2棟)

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、地域の方との交流、外食などの機会は控えているが、季節を味わえるようドライブ等の外出を取り入れている			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご本人とご家族とかかりつけ医を決めている。定期受診時は、担当者が情報提供書を記載し医師に報告し情報共有している。基本、ご家族に病院受診対応をしていただいている	家族の介護でかかりつけ医に受診をしている。その際、普段の状況が分かるようホームが作成した情報提供書を持参している。また、車椅子使用等で家族対応が困難時は、福祉タクシー利用や職員(ガイド料金)も対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所との連携がある。利用者様の状態や気づきを報告、相談し情報共有している。緊急時も指示を仰ぎ適切な処置ができるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報提供書、お薬情報を提供している。また、早期の退院を目指しご家族や病院関係者と情報交換をしている			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期のあり方について確認しているが、ご本人の心身の状態を見守りつつご家族の気持ちの変化もある事から、介護計画書更新の際や容態の変化時は本人を含めご家族の終末期における意向を確認している	契約時や定期的に利用者・家族に、重度化や終末期、看取り介護について指針をもとに説明し同意を得ている。まだ看取りの経験はないが、医療連携や職員の役割、体制作りに努め支援できるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中、夜間の事故対応マニュアルを職員が常に目にする場所に置いてある。以前は消防署による救急法や応急処置の講習を行っていたが、コロナ禍により実施できていない			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、昼夜を想定した避難訓練や通報・初期消火訓練を実施している。地域との協力体制は、コロナ禍により、難しい状況が続いている	緊急連絡網、実施要項、役割分担等を整備し避難訓練を行っている。しかし、コロナ禍で近年は地域の協力も得難い状況もあり、参加協力までには至っていない。	地域への協力要請に合わせ、利用者が日常的に庭に出て活動する時間を、避難訓練に結びつけることで、少人数の職員の中でも、利用者がスムーズに避難できることに期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や、これまでの生活環境を把握し、言葉や口調に気を付け、その人らしさを尊重した対応ができるよう留意している。申し送りの際は、プライバシーに配慮しイニシャルで行っている	正面から名前を呼び、ゆっくり、はっきりと話しかけるが、排泄の誘導時には、耳元で本人に聞こえる程度でさりげなく言葉も選択している。利用者を観察しながらの申し送り時には、呼称にイニシャルを用いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話等から、ご本人の思いや希望を引き出し、自己決定できるような声かけや工夫をしている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日程はあるが、その日の体調、状況に応じて対応している。できる限りご本人のペースに合わせて希望を取り入れ穏やかな日々が送れるよう支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の髭剃り、爪切り、季節にあった衣服の調節等、身だしなみに気を配っている。また、好みの洋服を一緒に準備し、着衣の乱れや汚れがある場合は清潔を保っている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日は利用者様の好きな食べ物を事前に尋ね提供している。施設の畑で収穫した野菜を食材として活用している。コロナ禍により、職員が同じテーブルで食事をすることは控えている	2名の調理専門職員が、栄養面、味付けを考慮した献立のもと食事を提供している。誕生日には本人の希望される献立とケーキを準備するなど楽しみを提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりに合わせて、食事量や形状の調整を行っている。必要に応じて、栄養補助食品を活用、水分の進まない方には、好みの飲み物を提供している			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの実施、就寝前には義歯を洗浄液につける等、清潔保持に努めている。歯科医院との連携もある			

宮崎県川南町 グループホーム「すいせん川南」(2棟)

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録を確認し、排泄パターンを把握、定時での声かけ誘導を行っている。排泄の失敗や不快感を減らす努力をし、可能な限り、トイレでの自力排泄を促している	排泄パターンを把握しケアすることで、大パットから中、小へと改善できたり、失禁から更衣介助をすることが減ったりと、自立に向けた支援に繋がっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い、なるべく体を動かしている。排便状況を常に把握し、ヨーグルト等おやつを工夫している。医療機関と連携を図り、緩下剤の調整を行っている			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが体調に応じて対応している。好みの温度調整を行い、長風呂の方は順番を考慮している。冬至にはゆず湯を提供し、時には入浴剤等で香りを楽しんでいただいている	利用者が週3回入浴できるよう支援をしている。体調などで順番を決めるが、できる限り希望に沿い気持ち良く入浴できるよう努めている。また、汗をかいたり、汚染した際にはシャワー等でも対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調や様子を見ていつでも居室で休めるようにしている。季節に応じエアコン設定や布団の調整をし安眠できるよう配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬表を作成している。正確な服薬ができるように職員2人での読み上げ確認、利用者様との再確認を行っている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや書き物等、できる事はご自身で行っていただいている。歌や体操レクリエーション等で楽しんでいただき、気分転換を図っている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、限られた外出になっているが、季節に応じてドライブに出かけている。車窓から景色を楽しみ、笑顔が多く見られている	コロナ禍であるため、今まで通りの支援は難しいが、利用者は日常的に庭に出て、それぞれに散歩を楽しんだり、体操をしたりとリフレッシュを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の金銭管理は難しいため、ご家族様管理としている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望されれば、ご家族に電話をかけている。お正月には、年賀状にご本人のコメントを書いてもらい、担当スタッフからも一言コメントを入れ交流している			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保ち気持ち良い空間づくりを心がけている。温度や湿度管理の為、空気清浄機や加湿器を活用、利用者様が快適に過ごせるよう支援している。リビング、壁面に季節ごとの飾り付けをし、一緒に製作した作品を掲示している	利用者が日中ほとんどの時間を過ごすリビングは、空調管理や感染防止対策が整い、過ごしやすい空間となっている。廊下にある展示物は季節感が伺え、居室までの移動も楽しみがもたれる工夫がある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	活動したい方、休息したい方、テレビを観たい方等、利用者様が希望する空間を見逃さず、さりげない声かけでの誘導を心がけている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が作った作品や思い出の写真を壁に掲示している。また、入所時には、思い入れのあるものを持ち込んでいただいている	備え付けのベッド以外は、利用者一人ひとりの使い慣れた寝具やタンスなどが持ち込まれ、自室の雰囲気を保ち、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や玄関、要所に手すりを設置し周辺には障害物になるような物は置かないようにしている。居室には各自の表札を設置している。トイレの場所が分かるように大きな文字で示している			